

第 12 回 金沢自転車ネットワーク形成に向けた勉強会 開催記録【概要版】

- ◆「第 12 回金沢自転車ネットワーク形成に向けた勉強会」を 11 月 26 日（土）に開催しました。今回は「サイクルツーリズム」をテーマとして開催しました。
- ◆会場開催に加え、オンライン配信も実施し、県内外から多くの方にご参加いただきました。
- ◆基調講演や先進事例報告、金沢での取組事例の報告、パネルディスカッションでの意見交換を行いました。

- ・開催日：令和 4 年 11 月 26 日（土）13:30～17:00（受付開始：13:00）
- ・会場：金沢歌劇座 大集会室（オンライン配信も実施）
- ・主催：金沢自転車ネットワーク協議会
- ・参加者数：56 名（会場参加 43 名、オンライン参加 13 名）
- ・プログラム：

1) 開会 ・公立小松大学 教授 高山 純一 （金沢自転車ネットワーク協議会 会長）	13:30 ～13:35
2) 【第一部】 基調講演・金沢での取組報告（90 分） (1) 基調講演：「徳島大学サイクルツーリズム講座の取り組みについて」（30 分） 講師： 徳島大学 教授 山中 英生 (2) 事例報告：「NCR 指定を目指した道路、観光、まちづくりを軸とした 官民連携協議会設立の事例」（30 分） 講師： (株)アーチ・ヒーロー北海道 代表取締役 高橋 幸博 (3) 金沢での取組報告（20 分） ・「いしかわ里山里海サイクリングルートについて」： 石川県 道路整備課 ・「金沢市公共シェアサイクル「まちなり」と「観光」」： 金沢市 歩ける環境推進課 (4) 質疑（10 分）	13:35 ～15:05
3) 休憩（10 分）	15:05 ～15:15
4) 【第二部】 パネルディスカッション（100 分） <テーマ> 「官民一体となったサイクルツーリズムの振興を目指して」 ・コーディネーター： 北陸大学 名誉教授 三国 千秋 （金沢自転車ネットワーク協議会 委員） ・コメンテーター： 徳島大学 教授 山中 英生 （ナショナルサイクリングルート審査委員会 委員） (株)アーチ・ヒーロー北海道 代表取締役 高橋 幸博 （ナショナルサイクリングルート審査委員会 委員） ・パネリスト： 福井県若狭湾サイクリングルート推進室 室長 桑原 景子 （若狭湾サイクリングルート推進協議会 事務局） 一般社団法人若狭美浜観光協会 事務局長 藤田 美穂 （若狭湾サイクリングルート推進協議会 構成員） 富山県地方創生局観光振興室 課長 浜元 孝之 （富山県自転車活用推進連絡会議 事務局） 株式会社浜黒崎観光協会 浜黒崎キャンプ場管理人 平井正人 石川県道路整備課 課長 宮本義浩 （いしかわ里山里海サイクリングルート利用促進協議会 事務局） 石川県サイクリング協会 理事長 岡本 勇 （いしかわ里山里海サイクリングルート利用促進協議会 委員）	15:15 ～16:55
5) 閉会 ・国土交通省 北陸地方整備局 金沢河川国道事務所 所長 桑島 正樹 （金沢自転車ネットワーク協議会 事務局）	16:55 ～17:00

▼【第一部】基調講演（徳島大学 山中 英生 教授）

・「徳島大学サイクルツーリズム講座の取り組みについて」と題して、令和元年から始動した講座の活動内容や、審査委員を務められているナショナルサイクルルート制度の概要についてもご講演いただきました。



◇徳島大学サイクルツーリズム講座では、「“とくしま”ならではのサイクルツーリズムを創る」を目的に、地域のキーパーソンとともに各地の事例の勉強やガイドツアー試行などの活動をしています。

◇講座で学習すること、そこからのつながりが拡大し、波及効果が生まれるといった循環が生まれます。金沢のサイクルツーリズムにおいても勉強会⇒つながり拡大⇒波及（拡大）⇒事業における連携といった好循環を目指して進められることを期待しています。

▼【第一部】先進事例報告（(株)アーチ・ヒーロー北海道 高橋 幸博 代表取締役）

・「NCR 指定を目指した道路、観光、まちづくりを軸とした官民連携協議会設立の事例」と題して、サイクルツーリズムを持続可能な事業とするための方策や全国での取組事例をご紹介いただきました。



◇サイクルツーリズムを含むアドベンチャーツーリズムは、地域資源を経済価値に結びつけ、サステナビリティにも貢献できるとして、消費額も雇用創出効果も大きな市場となっています。

◇サイクルツーリズムを持続可能な事業とするために、地域住民と既存の事業が共有できるプロジェクトとすることで地域の魅力発信を加速させることや、「ハードウェア」「ソフトウェア」だけでなく、それらをつなぐ「オルグウェア（コミュニケーションをとり能動的につながる場作り）」が重要です。

▼【第一部】金沢の取組①（石川県 土木部 道路整備課 大代 専門員）

・「いしかわ里山里海サイクリングルートについて」と題して、石川県が取り組んでいるサイクルツーリズム関連施策についてご発表いただきました。



◇石川県では、平成 28 年度から、全 7 ルート約 630km を「いしかわ里山里海サイクリングルート」としてサイクリング環境の整備や魅力発信、利用促進施策等に取り組んできました。

◇今後、国が指定するナショナルサイクルルート選定を目指し、引き続き走行環境整備等に取り組むとともに、北陸 3 県の連携による観光誘客を推進していきます。

▼【第一部】金沢の取組②（金沢市 都市政策局歩ける環境推進課 谷津 主任技師）

・「金沢市公共シェアサイクル「まちなり」と「観光」と題して、まちなりの観光分野における取組をご発表いただきました。



◇金沢市では、平成 24 年から「まちなり」の事業を開始し、近年は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けながらも、年間目標利用者数の 10 万人を大きく上回っており、観光客にも多く利用されています。

◇今年度は「まちなり」でめぐる文化ツアーや金箔箔など伝統工芸とのコラボレーションにより、まちなりの利用促進と文化の魅力発信に取り組んでいます。

▼【第二部】パネルディスカッション①（福井県若狭湾サイクリングルート推進室 桑原 景子 室長）



◇福井県では、北陸新幹線福井・敦賀開業や大阪・関西万博開催の好機に嶺南地域への誘客を図るため、敦賀市から高浜町までの 6 市町を結ぶ「若狭湾サイクリングルート」のナショナルサイクリングルート指定を目指しており、走行環境や受入環境の整備、情報発信を実施しています。

◇官民 25 団体から構成される「若狭湾サイクリングルート推進協議会」を設立するとともに、県庁内には、部局横断による「若狭湾サイクリングルート推進チーム」を設置し取り組んでいます。

▼【第二部】パネルディスカッション②（（一社）若狭美浜観光協会 藤田 美穂 事務局長）



◇嶺南地域の観光地は粒が小さく二次交通も乏しいですが、自転車であれば周遊することが可能です。自治体の首長や観光担当課、観光協会にガイド付きの自転車ツアーや自転車によるまちづくりについて熱意を持って伝えて回りました。

◇三方五湖周辺では、サイクリングクラブによる清掃や「若狭路センチュリーライド」が行われており、今後、「若狭湾サイクリングルート」を起点に、6 つの自治体を東西に串刺しにすることで、県外・国外からの誘客を図りたいです。

⇒(株)アーチ・ヒーロー北海道 高橋 幸博 代表取締役：福井の取組は、講演会等の後の懇親会や、4 市町の議長会の二セコ視察等により、リーダーとなる人が自転車への理解や関係者とのつながりを深めている点が良いと思います。

⇒徳島大学 山中 英生 教授：自転車を体験して楽しかった記憶が、取組のきっかけになることがあるため、小さな自治体でも十分可能性があると思います。

▼【第二部】パネルディスカッション③（富山県地方創生局観光振興室 浜元 孝之 課長）



- ◇富山県では、「富山湾岸サイクリングコース」がナショナルサイクルルートに指定されましたが、まだ課題は残っており、引き続き走行環境・受入環境の整備や、情報発信等の取組を行っています。
- ◇情報発信の取組としては、ユーチューバーによる動画の投稿や、サイクリング専門誌とのタイアップにより、全国に向けて発信しているところですが、今後も自転車を活用した地域振興に取り組むとともに、様々な民間事業者と連携できる仕組みづくりを検討していきたいです。

▼【第二部】パネルディスカッション④（(株)浜黒崎観光協会 浜黒崎キャンプ場 平井 正人 管理人）



- ◇キャンプ場を運営する中で、SNSを中心とした情報発信を積極的に行っています。地元のサイクリストのユーチューバーとのコラボレーションや、ホテルイカがとれるキャンプ場として売り出すことにより、全国からの誘客に成功しています。
- ◇自転車とキャンプを掛け合わせた取組として、サイクルツーリズムの参考にさせていただきたいです。

▼【第二部】パネルディスカッション⑤（石川県道路整備課 宮本 義浩 課長）



- ◇石川県では、アンケートから把握した県外サイクリストの移動手段として、自動車が多くなっているため、駐車場の情報を提供していますが、鉄道利用も増やしていきたいと考えています。
- ◇官民連携の観点では、サポート施設の設置や、モバイルスタンプラリーの取組等を実施しています。また、学生と地域が連携したサイクリングマップの作成なども行われており、今後もサイクルツーリズムの振興に取り組む予定です。

▼【第二部】パネルディスカッション⑥（石川県サイクリング協会 岡本 勇 理事長）



◇サイクルツーリズムを進める際に、プロガイドなどの人材育成が課題だと感じており、数年前から石川県サイクリング協会でも指導者育成のための講習会を実施しています。

◇白山市や中能登町において、地域とサイクリストが連携して取組を進めていますが、県内で取組が一元化できていないという点はウィークポイントであり、県内の様々なところで実施されている取組をつなぐネットワークの仕組みをつくるのが急務だと感じています。

▼【第二部】パネルディスカッション⑦（事前質問への回答）

◇事前質問1「ナショナルサイクルルート認定のメリットは？」

⇒浜元：サイクリストの増加や、プロモーションビデオの撮影地になるなどの効果がありましたが、何より、地域住民が誇りに思っていることや、波及して新たな取組が生まれていることがメリットだと思います。

◇三国：コメンテーターから見た「富山湾岸サイクリングコース」の魅力はいかがでしょうか？

⇒山中：楽しめるポイントが散らばっていることだと考えています。

⇒高橋：立山連峰が臨めるなど、日本海側の圧倒的な自然の風景が魅力だと思います。

◇三国：富山における取組のアイデアはどのように生まれていますか？

⇒浜元：当初は、先行的に取り組まれている「しまなみ海道」や「ピワイチ」を参考にしました。

▼【第二部】パネルディスカッション⑧（高山会長のコメント）



◇本日の発表から、富山県、福井県ともに取組が非常に進んでおり、石川県もより頑張る必要があると感じました。

◇福井県は「わかさいくる」という愛称が良。また、福井県で部局を横断した若狭湾サイクリングルート推進室を設置しているように、石川県にも推進室のような組織をぜひ設置して取り組めるとよいと思いました。走行環境整備だけではなく、官民連携の組織による受入体制の整備を進めていただきたいです。

▼【第二部】パネルディスカッション⑨（会場からのコメント）

◇NPO 法人富山サイクル交流倶楽部 西山理事長：富山も官民の連携をどのように始めて、育てていけば良いのか難しく感じています。

◇地球の友・金沢 三国 成子氏：自治体は異動や、縦割りであることがネックになり取組がなかなか進まないことがあるように見受けられますが、福井県はいかがでしょうか？

⇒桑原：当初は行政の動きが遅れている部分がありましたが、推進室と協議会ができたことで、様々な関係者を巻き込みながら取組と対話を進めています。

⇒山中：自治体の職員でも、自転車が好きで部署関係なく関わってくれるような人が見つければ大

きな力になると思います。

▼【第二部】パネルディスカッション⑩（事前質問への回答）

◇事前質問2「サイクリストの増加によるマナーに関する困りごとは？」

⇒浜元：県外の方によると、富山県は他のルートと比べると走りやすく、クルマの幅寄せなどもないと聞いています。

⇒平井：サイクリストのマナーについて悪いイメージはまったくありません。

▼【第二部】パネルディスカッション⑪（三国コーディネーターからの質問）

◇自転車を使ったまちづくりを進める上で、地方の課題である高齢化や過疎化に対してはどのようにお考えでしょうか？

⇒桑原：今年は住民セミナーを開催していますが、まずはまちづくりに関心のある人に理解していただき、地域を盛り上げてもらうことが重要だと思い、取組を進めています。

◇新型コロナウイルス感染拡大の影響はどのようにありましたか？

⇒浜元：行動制限はありましたが、自転車の魅力の再認識や、地域の良さの再発見のきっかけにつながったと思います。

⇒平井：キャンプ場は盛況でしたが、施設によっては影響を受けてしまい、継続的な情報発信が大切だと学びました。

▼【第二部】パネルディスカッション⑫（会場からの質問）

◇加賀市都市計画課 高辻リーダー：嶺北地方への取組の波及はどのように考えていますか。

⇒桑原：まずは若狭での取組に注力したいと考えています。

⇒高橋：Local to Local という考えもあり、地域が隣接している必要はなく、例えばツアーの行程は、取組を実施している地域をつないでいくということも考えられます。

▼【第二部】パネルディスカッション⑬（三国コーディネーターのまとめ）



◇本勉強会でも良いですし、今後も3県で集まる場が今後も必要だと思います。

◇サイクルツーリズムは住民が自分の地域の魅力を理解し、自転車というツールを使って地域に光を当てることができるものだと感じました。

◇自転車は実際に乗らないとわからない部分が多くあり、知見や体験を共有することはとても大切だと思います。

▼会場の様子

